

「中部人懇」は「中部地区人権教育懇談会」を略した名称です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進をはかることを目的に1971年(昭和46年)に発足しました。本会の取組は同和問題をはじめとするあらゆる人権問題について語り合うことで、中部全体の人権意識の高まりを生み出してきました。今年度は幼児教育関係者、学校の教職員、市町行政職員、PTA関係者を対象に4回の研修を行っています。

「中部人懇」って  
こんな会です！



令和2年11月21日(土)、教育行政職員やPTAを対象として、第4回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

## 講演「ともに笑顔で幸せに生きるための『特別講座』～部落差別をはじめとする人権課題から～

講師 びわこ成蹊スポーツ大学 客員教授 園田 雅春 氏

### ■講演の内容

#### ○ともに笑顔で幸せに「生きる力」の源泉

- ・自分自身が大事にされている実感(被尊感情)があってこそ、自尊感情が育ち、人権感覚が養われる。
- ・「自分の人権が尊重された経験のない者は、他人の人権も尊重しない。」(悪いこととして説教することより、本人が尊重される経験をさせることが大事。)
- ・「自尊感情」とは、自分自身を基本的に価値あるものとする感情だが、「どうせ自分なんか…」という自己差別感情が日本の若者にある。国立青少年教育振興機構調査では、4か国中一番自己評価が低かった。
- ・「命は大切だ 命を大切に そんなこと何千何万回言われるより あなたが大切だ」だれかが そう言ってくれたら それだけで生きていける。

#### ○「誰一人取り残さない」地域づくり・町づくり そして教育・啓発

- ・道徳の教科書「ヒキガエルとロバ」(小学校3・4学年)では、子ども達の行為によって荷車にひかれて命を落とそうとするヒキガエルと、荷車をひくロバが小さな命をも助けようとする場面に「生命の尊さ」がある。
- ・部落解放同盟鳥取県連・発行「被差別体験聞き取り調査」報告書より、今もなお、つらい思いをしている方がいる現状がある。



### 【参加者の感想より】

- 「カナリア」のお話の中で(カナリアは有毒ガスを感知する能力に優れていることから、災害地で毒の有無の認識に利用される。)すぐに毒を感知することと同様に、子どもは世の中のすきんだ部分をすぐに感じ取るという事を、改めて実感しました。講演を聞かせて頂き、子どもとの向き合い方を考えさせられ、日頃からの関わりを深めていきたいと感じました。
- グループ協議で、先生の話聞いて、今日帰ったら我が子をぎゅっと抱きしめようという言葉がありました。自尊感情を育てなければ…と頭では分かっているけど日々忙しく、ついできないところ、悪いところに目が向きがちで小言を言ってしまいます。今日くらいは、子どもの話をよく聞いて、やさしい母でありたいと思います。

今回の園田先生のご講演は、今までの子どもたちとの関わり方や自分自身の行動について改めて見つめ直す機会となりました。日頃の忙しさで、思いやりや人権意識がつつい薄れていきがちですが、このような研修会に参加することで、自身を見つめ直していきたいものです。

